

奥能登原木しいたけ 「のとてまり」・「のと115」だよ

令和2年度第6号
(通巻18号)
令和2年12月3日発行

<発行者> 奥能登原木しいたけ活性化協議会、石川県農林総合研究センター

しいたけの発生と袋かけ、出荷まで

ー発生(芽切り)ー

日々の気温が下がってくると、低温刺激により発泡栓を持ち上げてしいたけの芽が育ってきます(芽切り)。芽の大きさが2~3cmくらいになると、保温、保湿のために袋をかけます。



芽切り

ー袋かけー

袋はピン(ダルマ画鋲)で留めますが、しいたけから2、3cm離れたところにピンを刺します。しいたけが成長したとき、ピンに触れないようにするためです。

画鋲は、尖った部分が折れやすく、異物混入の原因となりますので使用してはいけません(のとてまり栽培の手引19ページ参照)。



ピン



Oピン



×画鋲

【悪い例】ピンの位置が近すぎる

しいたけの傘がほだ木に触れている場合は特に注意してください。触れている箇所が黒く変色します。味や品質に影響はありませんが、共選での評価が下がってしまいます。

袋かけには傘の変色を防ぐ効果もあります。この場合、ピンを使わず、傘とほだ木の間に袋をはさみます。注意点として、結露した水が下に落ちるよう、袋の口が開くようにはさんでください。

ほだ木に
触れていた
部分が変色



変色した例

結露した
水分が
落ちる



袋をはさんだ例

ー出荷前の注意点ー

袋をかけたままだと、傘の表面が湿っているため、出荷の数日前に袋をはずし、風にあてて余分な水分を飛ばします。

ハウスの環境によって2、3日で良いところもあれば、1週間くらい必要な場合もあるので、注意してください。



はずした袋は、変色防止のためはさんでおく

※裏面に続きます。

ハウスの管理

— 温度管理 —

ハウス内の気温は概ね12℃を超えないように管理します。日中、気温が上がりすぎないように、必要に応じて遮光ネットを張ります。

夕方、ハウス内の気温が下がる前に閉め切り、温度が逃げないようにします。加温は必要ありません。

— 換気 —

しいたけも呼吸します。しいたけが大きくなるときは酸素を必要とします。夜間も呼吸していますので、朝にハウスの換気をします。晴天日は午前中に行います。

収穫時の注意点

— 傘の厚みと巻き込みに注意 —

直径しか見ていないと、傘が開きすぎて丸みや巻き込みが無くなっていることに気がつきません。

直径が大きくても、巻き込みがないと評価が低くなります。多少直径が小さくても傘に厚みがあって、巻き込みがある方が評価が高くなります。

初出荷前に収穫すべきものを収穫せず、初出荷まで収穫を遅らせることがないように注意してください。品質の落ちたしいたけを出荷することは、今後のブランド評価に大きく影響します。

出荷時期を基準にして収穫するのではなく、しいたけの形状を基準にして適期に収穫するよう心がけてください。

× 開き過ぎた例



上から見た様子



横から見た様子



下から見た様子

○ 良い例



上から見た様子



横から見た様子



下から見た様子